

令和7年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和7年10月27日(月) 14時00分～16時00分

2 開催場所

千葉市役所 3階 L会議室302

3 出席者

(委員)

神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、瀬崎委員、沼田委員、高梨委員、湯本委員

(事務局)

堺生活文化スポーツ部長、吉野文化振興課長、事務局職員

4 議題・報告

- (1)(議題1)第3次千葉市文化芸術振興計画 中核事業の評価
- (2)(議題2)令和8年度千葉市芸術文化振興事業補助金 募集要項

5 議事の概要

(1)(議題1)第3次千葉市文化芸術振興計画 中核事業の評価

第3次千葉市文化芸術振興計画 中核事業の評価について、事務局から説明の上で審議を行った。

第3次千葉市文化芸術振興計画 中核事業の評価について、<評価(案)>、<次回に向けた提言(改善案)>に関する意見を事務局でまとめ、次回の会議で提示することについて了承を得られた。

(2)(議題2)令和8年度千葉市芸術文化振興事業補助金 募集要項

令和8年度千葉市芸術文化振興事業補助金 募集要項について、事務局から説明の上で審議を行った。

令和8年度千葉市芸術文化振興事業補助金 募集要項について了承を得られた。

6 会議経過

(1)(議題1)第3次千葉市文化芸術振興計画 中核事業の評価

≪第3次千葉市文化芸術振興計画 中核事業の評価について、事務局から、資料1-1～資料1-2を用いて説明を行った。≫

<施策1> バイサイドジャズ

神野委員長

説明のあったとおり、本日は中核事業6事業について審議します。各中核事業について事業実施者の評価・千葉市の意見などを事務局から説明してもらい、議論していく流れで進めます。委員のみなさまから、ご意見あるいは事務局への質問があればお願いします。

バイサイドジャズは27年間とかなり長く続いている事業です。継続して事業実施していく中で、実施方法などが確立して長年問題なく続けてこられていて、現状の評価としてはこれでよいと思いますが、これからバイサイドジャズの実施を通して、千葉市がどうなりたいのかが見えてきませんし、27年間実施してきて、千葉市がどのように変わったのかがわからないと感じます。現状が悪いということではなく、27年間続けてきたことを、今後どのように展開していくのか気になります。現状である程度コアなファンはいますが、そこからの拡がりあまり見られないという気がしています。

関委員

千葉市民会館大ホールでのスペシャル2DAYSコンサートの入場者270人は少ないという気がします。1,000人のキャパシティがある会場なので、27年間やっている事業であれば、もう少し観客が入ってもよいのではないかと感じます。実績でいうと事業に関わりがある人など内輪だけでやっている印象です。

高梨委員

千葉商工会議所もバイサイドジャズ2024に協賛していました。チラシを見ますと企業、団体の協賛が多いですが、拡がりという点では、学生など若い人の参加がないので、そういう方々の参加があるとよいという提案です。

神野委員長

既存の枠組みで長くやってこられたことは、それなりの成果だと思いますが、27年間続けているので、千葉市にとってもっと大きな好影響、大きな成果を出してほしいという想いもあります。より多くの人の参加、多様な若い世代の参加を求めてほしいということもあると思います。またこれだけ長くやってきたということは、千葉市の文化芸術の中でかなり力を入れてやってきた事業になると思いますが、千葉市がジャズの街というイメージはないと思います。

ジャズと千葉市民がどう関わっていくのかももう少し踏み込んで挑戦してもらいたいです。

市内外の人から評価された結果、安定して多くの人たちが来るということにつながるのであれば、さきほどの関委員のご指摘にもつながり、現状は入場者数があまり多くないということも指摘としてあると思います。

あるいは多くの人に関心をもってもらおうアプローチとして、プロの演奏で多くの人たちを引き込むという方法も当然ありますが、それ以外に多様な人たちの多様な参加方法と、ジャズを通じて市民が千葉市を私たちの街と思えるような工夫をしてほしいと思います。

高梨委員

千葉商工会議所女性会が50周年を迎えまして、九州や関西など全国から代表者が来て、総勢300名ほどで50周年記念式典を行いました。千葉市のベイサイドジャズを思い起こし、県外から来る人たちにもベイサイドジャズをアピールするために、大原保人さんによる演奏の企画をしました。そのようなアピールも今後、取り入れていただければと思います。

神野委員長

千葉市にある様々な団体がイベントなどの際に、ジャズを活用できるとよい、という意見をいただきました。

椎原委員

千葉市文化会館で行われるスペシャル2DAYSですが、前売一般6,000円、当日一般7,000円で有名なアーティストを呼んでいて、キャパシティの3分の1程度しかお客が入らないのは、やはり問題がある気がします。集客だけがすべてではないですが、外から見るとベイサイドジャズのメインの位置付けであるコンサートが3分の1の集客という状況です。

理由は、告知不足なのか、チケットが高いのか、要因を考えた方がよいということはお話をしたほうがよい気がしました。

神野委員長

委員のみなさまからの意見としては、街なかで多くの人たちに文化芸術を身近に触れる機会の提供ということでは、継続的に事業を実施している点は評価できますが、ベイサイドジャズの中心的なホールでのイベントの集客実績が寂しいものがあるということかと思います。集客やたくさんの人たちに支持されるにはどのようなアプローチが必要か今後検討していただきたいと思います。

次回に向けた提言(改善案)には入館者などに課題が見受けられるのではないかと、ということは追記していただきたいと思います。

椎原委員

5ページ<達成度の理由の指標>ですが、スペシャル2DAYSコンサートの入場予定250人という指標はあまりに少なすぎる気がします。ホールのキャパシティ1,000人からすると約4分の1でも達成したことになってしまいます。あまりに指標を低く見積もっている気がしますがいかがでしょうか。

神野委員長

この指標となる入場予定250人は誰がどの段階でどのように決めているのでしょうか。

吉野文化振興課長

基本的に、目標は千葉市文化振興財団が定めていて、この数字が低いというのはたしかにその通りですが、事情を説明しますと、通常スペシャル2DAYSコンサートは文化センターでやっており、文化センターのキャパシティは500人弱です。今回は会場が文化センターから千葉市民会館に移っていますが、目標値は文化センターでの実績見合いで設定されているためです。

関委員

文化センターのキャパシティが500人ですと、目標は250人なので、それでも半分だと思います。

神野委員長

そもそもの文化センターのキャパシティ500人で考えても、少ないという意見もありますし、それが1,000人規模のホールに会場が移ったときに、これまでのホール規模を基準にしているというのは、説明を聞いた上で、なお納得いかない感じもします。

この指標の設定に関して、ある程度は納得のいく目標でないと、目標の達成状況自体が信用できなくなってしまうので、事業実施者の目標設定の妥当性も検証しないといけないと思います。

椎原委員

1日目にはMALTAという著名なアーティストが出演しています。有名なアーティストを招聘してかなり気合を入れて企画しているはずなので、この目標設定はありえないと思います。

かなり著名なアーティストを呼ぶのであれば、このくらいの集客がないといけないという考えは当然出てくると思うので、そのあたりは今後考えてほしいと思います。

神野委員長

基本的にはこれまで継続して事業が実施できていますが、評価基準の集客に関する指標の妥当性は検証が必要など、本日の委員のみなさまのご意見は、事務局で次回に向けた提言としてまとめていただきたいと思います。

関委員

スペシャル2DAYコンサートが、文化センターから千葉市民会館に会場が変更された理由はなんですか。

吉野文化振興課長

令和6年度は建物の改修工事が予定されていて、そのための休館が影響しています。改修工事自体は、実は入札不調などもあり、すべての工程が完了していないため、令和7年度は残りの工事を行います。令和8年度の会場は文化センターに戻る予定と聞いています。

神野委員長

それでも、さきほど椎原委員からのご指摘のとおり、著名なアーティストを招聘して、それなりの料金設定をしているので、来場者見込み250人は少ないのではないかとということと、従来通りの広報では不足、より効果的な広報など市民に届くアプローチをしっかりと検討して取り組まないともったいないと思います。

また、ホールでの盛り上がり千葉市の文化芸術振興につながるのかということも、ビジョンとして考えないといけないと思います。開催が27回にもなりますので、これまでの実績を含めて、これから最終的に何を実現するのかということも議論していく必要があると思いました。

瀬崎委員

ジャズは、本当はそんなに広い会場でやるものではなくて、飲食しながら気楽に楽しんでいる人が多いです。大原保人さんのお店に伺ったこともあります。そこのお客さんが実際に千葉市民会館のホールに足を運ぶかということそうではないと思います。客層が違うことと、音楽のジャンルに適している会場があり、スペシャル2DAYコンサートは6,000円～7,000円に対して、他のイベントは2,000円程度と料金も違います。この差について、スペシャル2DAYSコンサートは何が特別なのか説明をしないと、お客さんは安い方に流れていきます。

集客に関して、より多くの市民に届けたいのであれば、例えば学校の吹奏楽部と共演したり、指導し

ていただくなど、生徒の親御さんも巻き込みながら、千葉市ならではの特別な企画をすると、ジャズを知らない市民にも知っていただけたと思います。

ジャズを知らない市民にも、ジャズの街と思ってもらうには企画が偏っている印象です。外でも演奏できる金管楽器を中心として、船を使ったジャズクルージングなどのアイデアは素敵だと思いますが、企画の意図とあまりマッチしていない印象があるため、うまくリンクできるとよいと思いました。

神野委員長

バイサイドジャズは何をゴールとしてやるのかという、そもそもの部分を議論する必要が出てきている、ということかと思えます。これまで27年間続けてきたことには敬意を示しつつ、頭打ちになっているところもあると思いますので、千葉市の文化芸術の発展や市民参加などいろいろな目的があると思いますが、バイサイドジャズが何に寄与するのか、再度設計が必要だと思えます。

文化芸術振興会議のこれまでの歩みを考えると、文化芸術基本法ができて、千葉市の文化芸術振興計画もいろいろなことを実現しようとして詳細になってきています。バイサイドジャズに関しては、そうした流れの前に進められてきたものなので、企画の意図や実施方法に関しては、今の時代に求められる形にリニューアルすることも求められると思います。

大きな宿題が課せられましたが、せつかく20年以上の歴史があるので、今の時代にふさわしく、千葉市の未来につながっていくような企画に見直すことが、次のステップとして必要ということは評価の中にまとめてもらいたいと思います。

湯本委員

スペシャル2DAYSコンサートは2日間あるので、2日間とも来場する方には割引などもあるとよいと思いました。

種谷副委員長

バイサイドジャズは、多くの協賛団体も集まり27年間続けてきたすばらしい事業だと思います。ですので、さらに続けられるように努力していただきたいということは、付け加えていただければと思います。

神野委員長

この月、この週は、こういうイベントがあるということが取り上げられて、その盛り上げのための仕組みとして、例えばチケットの割引など、いろいろな工夫があるかと思えます。

また、いろいろな企業・団体の方にご協力をいただいて、協賛という形で参加いただいています。街に見える形でいろいろなことが発信されて、街のどこかに行けば何か起きていて、というような街の雰囲気づくりみたいなことも必要なかと思えました。

いろいろなご意見があるということは、期待感も大きいとポジティブに受け止めていただき、提言をまとめていただければと思います。

<施策2> 舞台芸術体験事業

神野委員長

続いて、舞台芸術体験事業についてご意見をいただきたいと思えます。

ワークショップ形式の体験事業が中心のため、たくさんの人数の参加があるというわけではないと思いますが、20～30名の安定した参加者がいるということかと思えます。満足度に関してはアンケ

ートでいろいろな記載をいただいておりますが気になる点があります。3ページ<達成度の理由の指標、アンケート結果>ですが、「子供に習い事をさせられる場」という記載は、この事業の目的とは異なり、安価に習い事を提供するためにこの事業をやっているわけではないので、この意見が出ていることに違和感があるかなと思いました。その他は狙いが達成できていることが読み取れるかと思いません。

湯本委員

舞台芸術の体験機会の提供ということで、ワークショップを通じてパフォーマンスなどを行っていると思いますが、舞台芸術には表方と裏方がいます。裏方として、照明・音響・大道具・小道具・チケット受付・案内などみんなで助け合って舞台芸術ができます。

どうしても表舞台のパフォーマンスに目がいきますが、是非、裏方も体験していただきたいと思います。パフォーマンスを卒業された方などにも継続して舞台芸術活動に携わっていただけるように表方・裏方ともに参画していただけたらよいと思いました。

神野委員長

幅広く文化芸術の担い手を育成するということで、文化振興財団も事業をやっていて、運営側の体験機会もあったと思います。地味ではありますが、そういう取り組みをしている事業もあります。

演者側と運営側の人々がトータルで一緒にチームができるようなワークショップが実現できると、その場所で何かが生まれることにつながるので、今回の内容をベースとしつつ、それが膨らみを持つように計画してくれるとよいというご意見かと思いました。

関委員

神野委員長からもご意見がありましたが、アンケートの「子供に習い事をさせられる場」という記載については、この事業自体はピアノなどの習い事とは違うと思いますので気になりました。

ワークショップに参加した人たちが、これからも文化芸術活動に参加していくことは大事だと思いますが、私がこれまで地方でワークショップをやってきた経験では、毎年やるとだんだん参加者が固定化していきます。どれだけ新規の参加者を獲得できるかが大事だと思いますので、新規参加者獲得に向けた取り組みもしていけないといけないと思いました。報告として新規の参加者が何人程度いたのかわかるとよいと思います。

神野委員長

新規の参加者が何人程度いたかをリサーチして、指標の一つとしてほしいということかと思います。参加者が固定化してしまうのは、千葉市の事業として目指すところではないと思いますので、事業目的を踏まえてやり方を工夫していただければと思います。

瀬崎委員

若葉文化ホールの元気ちば「若葉ベアーズ」は、参加者25名全体でホールでの発表会などはあったのでしょうか。

吉野文化振興課長

若葉文化ホールが、区民まつりなどのイベントと連動して出演して、パフォーマンスの成果を発表するという取り組みを行っている聞いています。単独で事業の成果発表をしているというよりは、イベントと紐づけて発表の機会を多く設けていると認識しています。

また、美浜文化ホールの市民劇「千葉魂～Chiba Soul VII」は単独の事業として発表をしています。

関委員

若葉文化ホールの元気ちば「若葉ベアーズ」は、応援する団体があり、それを子どもたちが応援するような感じでしょうか。

吉野文化振興課長

チアリーディングのパフォーマンスの成果について、別のイベントと連動して披露しているイメージです。

瀬崎委員

せっかく長期間で活動されているのでしたら、もっと市民に知ってもらう場が最後にある方がよいと思いました。今後、もっと多くの人にも拡げていかないともったいない気がします。

神野委員長

現状も頑張って取り組んでいただいているとは思いますが、千葉市の文化芸術事業に自ら参加する人たちを増やしていくことにつなげることが目標だと思いますので、その点も考えていただけるとよいと思います。

高梨委員

ふるさとまつりやモノレールの駅の空いているところなどで機会を見つけて継続的に発表ができるとうよいと思います。20回以上の活動の中で、ワークショップを通じて舞台芸術に取り組んでいることをPRして、学生などにも参加を呼び掛けるなど、市民へのPRも考えていけるとよいと思います。いろいろな知恵を働かせれば、お金をかけなくてもいろいろなことができると思います。

参加者の意識と事業趣旨が異なっている点は私も気になりました。

神野委員長

全国のいろいろなところで類似の事業をやっていますが、映像で記録を残して、編集して映像をネットにアップするというをやっているところが多いです。最初は不安な状況から参加して、活動を続けて、最後に発表する一連の流れを映像としてまとめることで、この事業に参加した人に、どういう経験が提供されるかイメージしやすいということだと思います。

高梨委員からは、活動を継続的に見られるとよい、というご提案がありました。若葉文化ホールや美浜文化ホールの近隣の人には知られていると思いますが、多くの市民は知らないと思いますので、もったいない気がします。いろいろなアプローチがあると思いますので、この事業のことを広く伝えて、多くの人に参加してもらい、次の展開につながるまでイメージを伝える、ということを考えていただけるとよいと思いました。

椎原委員

千葉市芸術文化新人賞のことも書かれていますが、もう少し強調するとよいと思いました。新人賞受賞者の活動がこうした事業にもつながっているというようなストーリーがあるとよいと感じます。

神野委員長

事業自体は、ある程度ポジティブに評価できるので、それを積極的に伝えることをしてほしい、ということだと思います。

舞台芸術体験事業については、基本的に実施内容はよいと思いますし、参加者の満足度も高いと思いますが、せっかくの取り組みなので、いろいろなところとつなげていき、多くの参加者を増やすために、この事業を通じてどのような体験ができるか、視覚的に伝わる工夫もしていただきたいです。参

加者が固定することなく、常に新しい人が参加して、いろいろな活動につながっていくことが千葉市の望むことだと思いますので、そのためにも情報発信のイメージはしっかり伝えてほしいと思います。

その中で、それを支えている事業の一つとして、千葉市が長くやっている芸術文化新人賞も貢献しているのでアピールするべき、という意見です。

<施策3> 情報発信事業

関委員

僕は、「あでるは」の復活は嬉しいです。千葉市に住んでいたもので、年4回の紙で発行されていた「あでるは」はすごく懐かしいです。学生時代に千葉市の文化情報として表紙に載って嬉しかったですし、発行しなくなったときは残念に思いました。

WEB版で復活をしたので、これからの展望が知りたいと思います。

吉野文化振興課長

指定管理業務の一環の事業であり、来年度から新しく5年間の指定管理期間が始まるため、選定作業をしています。指定管理業務の提案書を見る限りにおいては、新たな展開は見受けられないところです。

沼田委員

SNSをやっていると思いますが、WEB版をつくっても、フォロワー数を増やす工夫・宣伝をしないと誰も見てくれません。SNSの運用はどのようにされているのか気になりました。

前半のレイアウトは、文字が横にたくさん並んでいて、少し読みづらいと感じましたので、もう少しレイアウトを改善して、デザイン性を配慮してもよいかと思います。

吉野文化振興課長

SNSは最近取り組み始めて、Xもやっていたはずですので、その辺りが中心と認識しているところです。情報やデザインなど工夫しないとなかなか見てもらえないということは、文化振興財団も認識しています。

神野委員長

まずは指標として、例えばviewer数、PDF版のダウンロード数などホームページがどのくらい参照されたのかは重要な指標になると思いますので、数値的な実績の把握は必要だと思います。WEB版への掲載内容だけでは、積極的な評価はなかなかしづらいということもあると思いますので、最低限数値の把握はしないとイケないと思います。発信した情報が最終的に誰に届くのか、そういうことも指標として工夫していただきたいと思います。

併せて、デザインに関するご指摘もいただきました。たしかにインタビュー記事がA4の紙面いっぱい書いてあると、非常に読みづらいです。これについてもオーディエンスからご意見をいただいてもよいと思います。関心をもていただければ、批判的な内容も含めてたくさんの意見が出てくることはとてもよいことだと思いますので、そういう声を拾う仕組みも必要だと思います。文化芸術に関する出版物ですので、デザインがよくないと効果が十分に発揮されない懸念がありますので、デザイン面についても工夫してほしいと思います。

達成度は「達成した」であり、やることはやっていますが、データがない状況ですと積極的にどこを評価すればよいか判断しづらいです。「あでるは」がWEB版で復活したことはよいことですが、物足りな

い感じがありますので、もう少しトライしてほしいです。

椎原委員

インタビュー記事など、PDFでダウンロードする形式だったものが、WEB版で見られるようになっていきます。インタビュー記事を充実させていることは、もう少し主張してもよいという気がします。

見開き1ページのインタビュー記事と啓蒙的な内容を発信している効果はまだ見えていませんので、どのくらいの効果があったか把握する、ということが大事だと思います。

インタビュー記事をつくることは大変だと思いますので、積極的に頑張っている部分は主張していけばよいと思いました。

神野委員長

インタビュー記事の内容で頑張っていると評価できる部分もあると同時に、文化振興財団でも情報誌の内容について戦略的に発信していく必要があるという提言でもありました。

椎原委員

情報がどの程度拡がっているかがまだ見えていません。ただホームページに情報をアップすればよいのではなく、例えば表紙で取り上げたアーティストの方がコンサートを開催したときにその情報をどう反映していくか、そういったことまで考えていくとよいと思います。

神野委員長

情報発信したということだけではなく、発信したことを他の事業や関心をもって惹きつけられる人にどうつなげていくのか、ということを経営的にやってほしいということです。

戦略的にやっていけば、その狙いに合わせて、どういう効果があったのか評価することもできます。するとそれに必要な情報の取得方法や、データ化する内容も検討する必要があります。情報発信をしたという、発信側の結果だけではなく、戦略の中で情報がどのように受け止められたのか、きちんと評価しないといけないと思います。

<施策5> アウトリーチ事業

瀬崎委員

若葉文化ホール、美浜文化ホールそれぞれ1回ずつ実施されていますが、この事業は定期的に継続していくのでしょうか。美浜文化ホールの対象は真砂中学校だけなのでしょうか。

吉野文化振興課長

アウトリーチ事業につきましても、5年間の指定管理業務の提案書で謳われており、その一環で実施していますが、先方の都合等もあり毎年実施することが約束できない部分が課題として記載されています。

対象の学校については、指定管理者は当然広く実施したいと思っっているようですが、先方との調整もあり、なかなか実現できていない実態があると認識しています。

瀬崎委員

私の友人にも千葉市で賞をいただいた方がいますが、学校や地域社会に貢献できることを誇りに思っていますので、単発の事業ではなく継続的に活動できるとすばらしいと思います。

神野委員長

継続的な事業の在り方も模索していただければと思います。北貝塚小学校えがお学級、真砂中学校かがやき分校にて実施していますが、他にもアプローチをした結果、一緒に事業をやりたいと引き受けていただいたのが、たまたまこの2校だったのででしょうか。

吉野文化振興課長

さきほどの継続性に関する説明と重なりますが、先方のご都合もありますので、お声掛けをさせていただいた中から、引き受けていただいた学校が実績としてあげられています。

神野委員長

社会的包摂の観点では実施自体はよいと思いますし、戦略的に目標をたてた結果での実績であれば評価できます。ただし、通常学級は授業などの調整がつかずに手が上がらず、たまたま今回の2校が引き受けてくれたということであれば、すごくネガティブな感じがしますので、戦略をもって積極的に対象校にあたった結果、実績があったということを語れるようなストーリーがほしいと思いました。

指定管理業務の予算の中で2校しか実施できないのでしょうか。それとも予算的にはもう少し実施できる中で、手が上がったのが2校だったのででしょうか。

吉野文化振興課長

指定管理者の企画提案の中でアウトリーチをどれだけのボリュームで組むか、予算を含めた配分が決まっていますので、予算組では2校より増やす形ではなかったと記憶しています。ただし予算配分でアウトリーチを増やそうという意図で、その予算を増やすということはできるとは思いますが、来年度からの提案書を見ているところでは、大きくは変わっていなかった印象です。

神野委員長

さきほどの瀬崎委員のご意見ともつながりますが、実施校数が少ないということと、単発の実施では効果が見込めないということがあると思います。何を実現したいのかを見込んで、事業数、事業規模、実施方法を検討することが必要だと思いました。実績として、事業を実施したこと自体には意味があると思いますが、戦略の中で積極的に事業を位置付けるという在り方が望ましいです。

瀬崎委員

私も全国でアウトリーチ事業をしています。今は学校の先生や教育委員会が鑑賞会で何を生徒に観せるか選ぶ時代になっています。音楽鑑賞教室などを事業者が提案して、学校が選んでいます。千葉市の場合、これまで千葉市音楽協会の人たちがまわっていましたが、千葉市の実績を学校にアピールしないと学校の先生方の関心が薄れていってしまうと思います。

神野委員長

これも多様な選択肢がある中で、どのような戦略をもって何を実現したいのかに結び付きますので、まずは事業実施の質を上げていくということかと思えます。

事業の実施自体は評価しますが、より戦略的に教育委員会などとも連携しながら、今の時代にふさわしい実効力のある形を模索してほしいと思います。

<施策6> 文化芸術推進事業

椎原委員

映画「へんしんっ！」上映会&トークショーが評価対象になっていますが、対象がピンポイントであるため、それでよいのかなと思うところがあります。

ネットで調べると、いろいろな自治体でやっているある意味でキラークンテンツであり、ソーシャル・インクルージョンの観点で選択しやすいコンテンツだったのかと思いますが、そうすると企画力については評価しづらいと思います。

神野委員長

文化振興財団の事業ですが、これまであまり経験がなかったために先行事例を参照しながら実施したものと推測します。対象がピンポイントであるため、これでよいのかということもありますし、コンテンツとして「へんしんっ！」を選んだことについて、文化振興財団の考えはまだ弱いのだろうと思います。

事業の趣旨は重要だと思いますので、この事業をきっかけにして、今後、文化振興財団の個性、研究能力を発揮して、他でやっているコンテンツではなく、千葉市からオリジナルな事業を発信することを期待したいということかと思います。

あとは単発の事業として1回実施しておしまいではなく、継続した事業実施の中で、文化芸術振興計画の施策の意図を踏まえた上で事業を企画してほしいと思います。もちろん施策の趣旨は踏まえていると思いますが、ピンポイントな事業実施ですと、そう感じざるを得ないところもありますので、施策に沿った事業展開を期待したいです。

沼田委員

参加者20人とありますが、少ないような気がします。定員は何人で募集されたのでしょうか。

吉野文化振興課長

定員は35名で募集しています。

椎原委員

会場は千葉市文化センター9階会議室ですが、どうしてここが会場に選ばれたのか気になります。他の自治体では、大規模な上映会をしています。事業の予算が60万円弱だったからこの会場が選ばれたのかと推測します。とりあえず実施してみるということであればそれも仕方ないのかと思います。また、上映会としていますが、上映装置はどのようなものだったのかも気になります。定員35人程度なので、ブルーレイなどでやったのか、などいろいろと考えると、やはり小規模という感じがします。

神野委員長

椎原委員のご意見は重要で、身体的なハンディキャップに適した鑑賞体験を実現することは難しいです。鑑賞体験に係るハードルを取り除いて積極的に参加してもらうことを目指しているわけですが、定員が多くないためか、予算がないためか、定かではありませんが、会議室を上映会場に選ぶことに対してふさわしくないと感じられることもあるかと思います。会議室を会場とすることがベストなのであれば、会議室でもよいと思います。つまり、本来、上映にふさわしい会場が想定されているにも関わらず、そうした環境が用意されないことは疑問が出るとお思いますので、社会的包摂に係る事業を実施する際には、そういう配慮も必要になるので、意識を高く持ってほしいと思います。

事業の実施には意味がありますが、最初の勉強を含めての実施ということでしたら、経験からいろいろ

ろなことを学んでほしいと思いますし、何を大事にするか自分たちで考えて企画もしていただきたいと思います。

椎原委員

他の自治体と比較しますと、三重県では定員100名で、会場は三重県文化会館レセプションルームです。千葉市では定員30名なので、やはり小さいところでやっている印象です。予算が57万円程度で、トークショーのゲストにも相応のギャラをお支払いするので、大規模にはできなかったという事情もあるのかと思いますが、より拡がりを見せていくためには定員35名については少ないと感じます。

瀬崎委員

参加者20名と報告がありますが、いろいろな障害のある方がいますので、参加者はどういう障害のある方がいらしたのでしょうか。

吉野文化振興課長

視覚障害、聴覚障害の方が対象として参加されたと認識していますが、他の障害のある方について、どの程度の参加があったかは把握できていません。

瀬崎委員

障害も多様化しているので、1回だけの事業実施でこの会場に来られる方がどの程度いらっしまったか気にかかります。障害のある方と一緒にオーケストラで演奏をする際に、一緒に生活することでわかってくることもありました。映画を楽しむという意味で障害者だけを対象にするというよりも、障害者も健常者も一緒に楽しめる事業にできるとよいと思いました。

神野委員長

事業者のスタッフに、強い問題意識をもっていろいろなことを勉強して、事業を継続していくことで目指している状況を達成したい、というパワーがないと事業は持続できませんし、事業実施の際にも視点として取りこぼしが出てくると思います。文化振興財団にどういうスタッフがいて、どういう意識で実施しているかわかりませんが、職員の啓蒙もやっていただきたいと思います。評価シートを見る限りでは、配慮の視点が十分ではないと感じました。

瀬崎委員の意見にありましたが、障害のある人だけを集めて事業実施することが本当にベストな方法なのか検討も必要です。多様な人たちが同じ映画を鑑賞して、その後にコミュニケーションする環境が生み出されて、例えば聴覚障害のある人と健常者のよりスムーズなコミュニケーションの場ができるとよいという賛同者が増えていき、そういう方向から事業を動かしていくということが、事業の体験を通じて生まれてくるとよいと思います。

社会的包摂の意味でとても重要な事業ですが、まだまだ物足りない感じがしますので、より一層の研究・勉強をしてよりよい事業にしてもらいたいと思います。

<施策9> いなげ八景ツアー&ランチ

神野委員長

いなげ八景に関する学びを通じて地域の魅力を見直すという趣旨です。参加費1,000円でまち歩きをしながら各場所を紹介して、いなげ八景にちなんだお弁当も提供されるという内容です。

千葉市民ギャラリー・いなげには、旧神谷伝兵衛の別荘があり、文化財として保存されていて見学することができます。また、ギャラリーについては発表する人たちが集まる場所の機能があります。ここ

十数年で、学芸員が地域のリサーチを行い、地元の人たちから古い写真や記事を収集して展示などをしています。そうした地域の中にある、地域の歴史を扱う文化拠点としての役割を模索している中での取り組みだと思えます。

頑張っ取り組んでいると評価できると思えますが、さきほど千葉市からの意見にもありましており、いなげ八景ツアー&ランチがこの先にどのように展開していくのかは課題としてあると思えます。

沼田委員

千葉市民ギャラリー・いなげは、海の記憶を伝える地域ミュージアムとしての位置付けがありますが、漁などそういうことに触れる体験などはありましたでしょうか。

吉野文化振興課長

画面にも写真が映っていますが、いなげ八景については行き先として選定されています。漁はあまり前面に出てくるわけではないですが、海岸線の倉庫用地の面影などは紹介されていると思えます。

いなげ八景ツアー&ランチの事業ではないですが、過去千葉市民ギャラリー・いなげの入口付近に、昔の漁具などを集めて、この付近の海で漁をやっていたという歴史を振り返る展示は、期間限定ですがやっていました。

種谷副委員長

参加者14人は稲毛地区の方が多いのでしょうか。千葉市内の稲毛地区以外から来ているのか、千葉市外から来ているのか、参加者がどこから来ているのかはわかりますか。

吉野文化振興課長

評価シートに記載のアンケート以上のデータがなく、お住まいの属性などは持ち合わせていないです。

神野委員長

今後は、どこから来ているかがわかるようなアンケートをとっていただけると事業に活かせると思えます。

いなげ八景ツアー&ランチには直接関わらないですが、旧神谷伝兵衛の別荘で、夏の3日間だけ私の研究室でカフェをやっていますが、その際のお客さんの印象では、地元の方ももちろんいますが、ネットで探して地元のプチ旅行みたいな感覚で来られる方もいます。また、60歳代が多い印象です。そういう方は、稲毛近辺には住んでいませんが、稲毛の歴史とかを知ることにとっても関心があるので、おそらくそういう方も多いただろうと思えます。

湯本委員

神谷伝兵衛はワインのテキストにも出てくるすごい人ですので、ランチがあるのであれば、ワインのテイastingなどがあるとよいかと想像してしまいました。神谷伝兵衛はすごく有名ですが、もう少し広がっていくとよいと個人的に思えます。

神野委員長

稲毛八景ツアー&ランチ事業についての直接のご意見ではないですが、千葉市民ギャラリー・いなげは千葉市に残る数少ない古い建物の一つであり、建築的にも魅力的なので、歴史的な建築物として見学していただくということ以外の活用をもっと積極的にやっていただいたらよいのではないかとご提言かと思えます。いろいろと検討されていると思えますが、本格的に動き出すとよいと思えます。

(2)(議題2) 千葉市芸術文化振興事業補助金 令和8年度募集要項

《令和8年度千葉市芸術文化振興事業補助金 募集要項について、事務局から、資料2を用いて説明を行った。》

神野委員長

前回の文化芸術振興会議の議論を踏まえて、募集要項に反映したということかと思います。市民参加事業について、市民参加が具体的にどういふことを示すのか説明文に整理していただいたのと、市民育成事業について、育成する対象を明確にしたことが主な変更点です。

椎原委員

修正案において昨年度のいろいろな問題点をカバーしていると思います。現時点で細かいところを詰めていくという状況でもないと思いますので、今後、この内容で進めていただければと思います。うまくまとめられていると判断します。

神野委員長

アンケート結果の提出を必須にするということもありますが、千葉市の知りたい情報は必須項目として、アンケートの叩き台があると事業者はやりやすいと思います。

吉野文化振興課長

本日は設問のイメージはお示しできていませんが、神野委員長のご意見のとおり、事業効果に関して必須の設問を設定して事業実施事業者に案内する予定です。

神野委員長

おそらく事業者がアンケートの設問まで考えるのは負担が大きいですので、そうしていただくと助かると思います。

例えばアンケートの集計作業は大変ですので、私たちはGoogleフォームでアンケートをとることも多いので、そのあたりの手法なども選択肢としてご検討いただくとよいと思います。

それでは来年度の芸術文化振興事業補助金の募集に関しましては、この方向で進めていただければと思います。

議題はすべて終了となりました。とても活発な意見をいただきました。委員のみなさま本当にありがとうございました。

《閉会》

問い合わせ先
千葉市市民局生活文化スポーツ部文化振興課
TEL 043(245)5961
メール bunka.CIL@city.chiba.lg.jp